

平成30年度 第3回 「宇都宮市民大学運営協議会」議事録

- 1 開催日時 平成30年11月28日(水) 午後3時00分～午後4時30分
- 2 開催場所 人材かがやきセンター 研修室(中央生涯学習センター5階)
- 3 出席者 委員 7名(別紙参照)  
事務局 7名(生涯学習課)  
増淵課長, 吉澤課長補佐, 鈴木係長, 黒須総括, 高田専任  
藤田社会教育主事, 加藤社会教育主事, 佐藤主事, 亀岡地域指導員
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人 0人
- 6 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 議題
    - ① 宇都宮市民大学運営協議会役員を選出について(会長・副会長)
    - ② 宇都宮市民大学運営協議会役員を選出について(監事)
    - ③ 平成30年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況について
    - ④ 平成31年度宇都宮市民大学講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について
  - (3) その他
    - ・ 合同開講式・公開講座について
  - (4) 閉会
- 7 会議資料 別添資料参考
- 8 議事の経過
  - (1) 開会

事務局) … ただいまより, 平成30年度第3回 宇都宮市民大学運営協議会を開会いたします。今回は, 委員改選後, 初めての会議ですので, 委員の皆様を御紹介いたします。なお, 委嘱状につきまして, お席に置かせていただきましたので, 何卒よろしく願いいたします。

それでは, お手元の次第の裏面にございます, 委員名簿を御覧ください。名簿順に御紹介させていただきます。

・ 宇都宮大学 企画広報部 企画広報課課長

阿部 好子(あべ よしこ) 委員

なお, 阿部委員からは, 欠席の御連絡をいただいております。

- ・ 宇都宮短期大学 事務局長  
江田 壮一（えだ そういち）委員
- ・ 宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ  
大山 眞一（おおやま しんいち）委員
- ・ 株式会社 栃木放送 報道制作局長  
川島 育郎（かわしま やすお）委員
- ・ 帝京大学 宇都宮キャンパス 事務長  
川本 清（かわもと きよし）委員
- ・ 株式会社 下野新聞社 編集局総務部長  
小林 治郎（こばやし じろう）委員
- ・ とちぎボランティア NPOセンター ぽぽら コーディネーター  
リーダー  
小針 協子（こばり きょうこ）委員  
なお、小針委員からは、欠席の御連絡をいただいております。
- ・ 宇都宮メディア・アーツ専門学校 校長  
島田 繁雄（しまだ しげお）委員
- ・ 公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 事務局長  
野中 正知（のなか まさとも）委員  
野中委員におきましても、欠席の御連絡をいただいております。
- ・ 宇都宮市生涯学習センター運営審議会 委員  
長谷川 京子（はせがわ きょうこ）委員

以上、10名の委員でございます。

次に、定足数についてご報告申し上げます。本日の出席委員は、7名となっており、出席委員は半数を超えておりますので、宇都宮市民大学 運営協議会 運営要領 第6条 第2項の規定を満たしており、本日の会議は成立しておりますことを、ご報告いたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

宇都宮市民大学 運営協議会 運営要領 第5条 第2項の規定により、議事は会長が進行することとなっておりますが、委員の改選に伴い、現在 会長職があいております。つきましては、会長が選出されるまでの間、私の方で議事を進行することを御了承いただければと存じます。

(2) 議 題

事務局) … それでは議事に入ります。次第をご覧ください。

議題(1)「宇都宮市民大学運営協議会役員の選出について(会長・副会長)」につきまして御説明いたします。

**議題① 宇都宮市民大学運営協議会役員の選出について(会長・副会長)**

会長及び副会長の選任につきましては、宇都宮市民大学運営協議会運営要領 第5条の規定により、「協議会に会長及び副会長1人を置き、委員がこれを互選する。」とございますことから、委員の皆様の中から、会長及び副会長を選出していただきたく存じます。

会長及び副会長の互選につきまして、御推薦がございましたら、御発言をお願いいたします。

長谷川委員⇒ はい。会長につきましては、8月まで会長を務めていらっしゃいました川本委員はいかがでしょうか。また副会長につきましては、講座企画選考委員会委員長でいらっしゃる島田委員を推薦致します。いかがでしょうか。

事務局) … はい、ありがとうございます。ただいま、長谷川委員から御提案がありました。川本委員に会長職を、島田委員に副会長職をお引き受けいただくことに、御意見はありますか。

川本委員、いかがでしょうか。

川本委員⇒ はい。微力ではありますが、務めさせていただきます。

事務局) … 島田委員、いかがでしょうか。

島田委員⇒ はい。微力ですけれども、どうぞよろしくお願い致します。

事務局) … ありがとうございます。

川本委員を会長に、島田委員を副会長に御選任いただきました。それでは、川本会長にお席の移動をお願いいたします。

(移動後)

それでは、川本会長より御挨拶をいただきたいと存じます。

川本会長⇒ ただいま、会長に御指名をいただきました、川本でございます。本協議会を円滑に進めるとともに、市民大学事業がより良いものとなっていくよう努めて参ります。皆様、ご支援、御協力の程、よろしく願いいたします。

事務局) … ありがとうございます。続きまして、島田副会長より御挨拶をいただきたいと存じます。

島田副会長⇒ ただいま、副会長に推薦いただきました、島田でございます。どうぞよろしくお願ひします。私も初めてではありますが市民大学が更によくなるように、努力していきたいと思ひますので、どうぞ宜しくお願ひ致します。

事務局) … ありがとうございます。  
会長が決まりましたことから、運営要綱に基づき、ここからの進行は、川本会長にお願ひいたします。どうぞよろしくお願ひ致します。

会 長⇒ それでは、議事を進めてまいります。  
議題（２）「宇都宮市民大学運営協議会役員の選出について（監事）」につきまして、事務局よりご説明をお願ひ致します。

**議題② 宇都宮市民大学運営協議会役員の選出について（監事）**

事務局) … はい。監事につきましては、宇都宮市民大学 運営協議会 運営要領 第7条 の規定により、「監事は会長が指名する」とありますことから、会長より御指名をいただきたいと存じます。

会 長⇒ はい、それでは、私より指名させていただきます。  
前回に引き続きまして  
・ とちぎボランティア NPO センター ぽぽら  
小針 協子（こばり きょうこ） 委員

・ 公益財団法人 とちぎ未来づくり財団

野中 正知（のなか まさとも）委員

にお願いしたいと思いますが、本日、小針委員、野中委員、共に欠席でございます。従いまして、事務局で調整していただくようお願い致します。

事務局) … 承知致しました。

会 長⇒ 続きまして、議題（３）「平成３０年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況について」事務局から説明をお願いします。

**議題③ 平成３０年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況について**

会 長⇒ 皆さまから御意見、御質問等がございましたら、御発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

大山委員、よろしくお願い致します。

大山委員⇒ 緑色の「歩いて楽しむ！帝京大学キャンパスライフ♪」こういう試みはとても良い試みだと思います。単なる講義だけでなく、こういう組み合わせをこれからも大学と、持ち回りでこういう講座を開かれると思うのですが、やはり大学の看板学部であるとか、もしくはここを見てもらいたいという所がありましたら、宇都宮市民に公開していただければ、より相乗効果となり、宇都宮市民大学の発信ができると思います。その点いかがでしょうか。

会 長⇒ ありがとうございます。

おかげさまで、本学のキャンパスを見て頂くことができました。普段高校生などが多く来校していただいておりますが、やはり地域の方、そして一般の方に色々見て知っていただく機会に繋がるよう各部の応援をもらいながら、普段できない大学の見学として、事務局側と調整しながら準備しました。大学としましてもいろんな条件がありますから、必ずしもできるというわけではなかったのですが、今までにない連携による開放ができたとは考えております。

大山委員⇒ 結果的に何名ご参加されたのですか。

会 長⇒ 20名くらいだったでしょうか。

事務局) … はい、今回川本会長からお申し出をいただきました。事務局で合同開講式・公開講座の在り方を検討しているということがありましたので、帝京大学校内の見学・案内や、お昼も学食の方を開放していただけるというお話をいただきました。急遽、設定しましたことから、受講者への決定通知書に同封という形で案内周知を図りました。初めての試みでもありましたので、公開講座の受講者も緑色の案内書の意味がわからなかったとの声を後からいただきました。今回は、事務局の準備が不十分だったことから20名になってしまったところです。参加された20名の方は大変喜ばれておりました。見学箇所3か所を巡り、それぞれの分野の統治の方にご説明いただきました。また大変好評だったことから、もう1か所普段お見せいただけないような場所をご案内いただいたということで、参加者は大変喜んでいました。こういった試みも会場にだけお越しいただくことで出来る学びです。合同開講式・公開講座だけでなく、こうした連携による市民大学ならではの体験などにつきましては、来年以降も継続して工夫していきたいと考えております。

大山委員⇒ 募集のパンフレットを事前に配りますよね。この中にスペースを寄せて、組み込んでいただければと思います。ご検討ください。

事務局) … はい、検討してまいります。

会長⇒ はい、ありがとうございます。他に何かご質問いかがでしょうか。それではないようですので、平成30年度宇都宮市民大学後期講座の実施状況につきましては、報告案件となりますので、以上といたします。

会長⇒ 続きまして、議題(4)「平成31年度 宇都宮市民大学講座 企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について」につきまして、事務局から説明をお願い致します。

議題④ 平成31年度宇都宮市民大学講座企画・運営ボランティアスタッフ

企画講座の決定について

会 長⇒ この件につきまして、選考委員会委員長の島田委員から、委員会の選考状況をお願いいたします。

島田委員⇒ はい、先日行われました運営企画選考委員会では、Vスタッフによる企画書を基に、企画者がプレゼンテーションを行い、選考委員が社会ニーズ・市民ニーズ・構成力・運営力・発展性の5項目の視点を1～5点で各委員が採点を行う方法で審査をいたしました。それぞれのねらいを企画者に選考委員の方から質問致しまして、歴史のオリンピックは微妙に興味関心が高い、そして最近異常気象ということで、大災・人災ということについても結構興味・関心が高いということが特徴的かと思います。そして今回は、先ほど事務局の方からも説明がありましたがように、女性にちなんだ講座が多かったというのが、今回の異例の一突きという感じが致しました。そういう中で、委員で色々選考させていただいた結果、このような形になりましたということをご報告したいと思います。以上でございます。

会 長⇒ はい、島田委員、ありがとうございました。それではこの件で、みなさまの御意見、御質問等がございましたら、御発言をお願い致します。

大山委員⇒ 審査基準の中で、社会ニーズという文言が気になります。栃木県宇都宮市そういうものに関わらず、社会全般に関するニーズがあります。しかし、資料を読んでいますと、どんどん市に宇都宮市に誘導されるような感じがするため、もう少し整理されるといいのではと思いますが、いかがでしょうか。

島田委員⇒ そうですね。実際に審査委員をやらせていただいたときに、どういう風に違いを見出すかを考えるわけですけれども、やはりその辺についてはですね、事務局と相談しながらもう少しはっきりとした

差別化されていけばいいかと思っております。

大山委員⇒ 私は、8年ほどボランティアスタッフで企画を経験させていた  
だいているのですが、歴史ものとか、文学とか、地域に関わるこ  
とは、受講生は集まります。先ほど言われますように社会現象  
や、現在どういうことが起こっているのかというのは多少難しい  
という印象があります。そのあたりについては審査基準の方で厳  
しい側面があるので、もし少し緩やかな感じになったらどうかと  
思います。ご検討いただければと思います。

島田委員⇒ もう少し検討しながら、考えていただければと思います。

事務局) … 承知致しました。

長谷川委員⇒ 選考企画についてはよくわかったのですけれど、水曜日は設定さ  
れていないということと、夜間や早朝に実施すれば、もっと若い人  
達が受講できるのではないだろうかと思うのですけれど、その募集  
に関して何か決まりはあるのでしょうか。

事務局) … 水曜日に関しては、市民大学で使用しているこちらの会場におき  
まして生涯学習課人材かがやきセンター事業を実施しております。  
どうしても講師の課題もございますので、午前・午後・夜間も含め  
まして、研修室を中心に使わせていただくことから、水曜以外の時  
間帯でということで募集したところでございます。また、今回お話  
も出ましたように、早朝の時間につきましてはございませんが、午  
前・午後・夜間の3つの時間帯を設定しておりまして、今回第2回  
の次年度の方針ご報告させていただいておりますが、新規獲得を  
目指す上でも、今まで実施してこなかった曜日での企画を企画者V  
スタッフの方になげかけさせていただいた。結果、今年度は土曜日  
が1企画でございましたが、来年度は土曜日に2件企画していただ  
いております。有料講座ということもあり、リピーターに好まれる  
企画が多いのですが、少しずつではあります、新しい方にもお越  
しいただける機会に繋がる土曜日、また次には日曜日等を、実施日  
の枠として工夫していければと考えているところでございます。



川島委員⇒ 企画を提案していただく時にもある程度曜日や午前とか午後とかというのも考慮していただけているのでしょうか。

事務局) … 第2回の資料にも記載されていますように、午前・午後・夜間に分かれていますことと、実施曜日は水曜以外の曜日ということで、土曜も日曜も実施できるようにご提案いただけるようになっております。例えば講師を大学教授の方にお願ひしますと、土曜日・日曜日の方がご都合はつきやすいということもある反面、有料講座で料金を負担しての受講生がどのくらい集まるのかという心配も企画者側としてはあるようで、結果的に言いますと、集客への懸念が中々払拭できていないという所も実際の応募企画数に反映されているのかと事務局では認識している所です。

川本会長⇒ 土曜日2回というのは非常に対象も広がるし大変良いと思います。また、夜間は大変難しく、色々と事務局もご苦労されて、成功されていると思います。他にはいかがでしょうか。

大山委員⇒ 夜間の最初に企画した市民向け講座というのがありました。まあ、それなりに、下野新聞さんの力も借りまして、新聞を読むという講座を若者対象に募集したことがあります。それなりに人数は集まったのですけれども、あとビジネス講座もたしかあったと思うのですが、やはりシニアの方は出られませんので、若者を中心に集まったという経験はあります。また、私は宇都宮広報っていうのはすごい充実度の高い、冊子も厚くて、内容も豊富だと思います。しかし市民大学講座を探そうと思うと、後ろの方に出てましたですね。若者なんか、これ見るのだろうかという常々疑問があります。まあそのあたり少し仕掛けをし直して、集客をもう少し集まるように、広報とかですね、あとは各大学さんの方で、私、チラシを配ったことがあります。しかし、かなり折って下積みになっちゃいまして、中々見て頂けないというのもあり、ちょっと限界があります。やはり広報なのだなという気がしました。せっかく良い広報なのですから、もっと充実させて、改良していただければと思います。

川本会長⇒ はい。ありがとうございました。他にいかがでしょうか。  
それでは他にないようですので、「平成31年度 宇都宮市民  
大学講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定につい  
て」御承認いただけますでしょうか。

委員⇒ (異議なし)

川本会長⇒ 御承認いただいたということで、ありがとうございました。  
それでは、せっかくの機会でございますので、市民大学に関しまし  
て、何か御意見・御要望等がございましたら、御発言をお願い致し  
ます。川島委員、いかがでしょうか。

川島委員⇒ 先程、企画講座の関係で、「今を読み解く現代社会」が後期  
1講座のみということですが、前期は先程も大学連携、事務局  
の案をとということで何か企画を考えてくださるということですが、  
具体的に何かどんな方向やジャンルは目星がついているのでし  
ょうか。

事務局) … ジャンルに関しましては、大学連携コース、大学連携講座につき  
しても、12月に入りましてから連携先の大学様と打ち合わせをさ  
せていただく予定となっております。その際に、連携大学先の特色  
が活かせるような【今を読み解く現代社会】コースでの講座企画を  
お願いしたいと思います。先程お話に出ましたような社会ニーズ的  
とリンクするような話題を提供できるような教授や先生がいらっし  
やるようであれば、そちらの方の先生の話題を中心をお願いする予  
定であります。大学が持つ各学部のアラカルトという形で実施される  
場合が多いのですが、今回の後期講座：帝京大学では、1学科で深  
い学びに繋がる内容で企画していただき、定員を超える受講決定を  
したところですが、今後も、1つのテーマを掘り下げるような手法で  
お願いしていけるようには考えている所でございます。学びの場が  
深めることにリンクすれば受講生の興味と申しますか、市民の方の  
興味を引く企画になるのではないかと考えている所でございます。  
来年の予定でございますが、今日ご出席いただいております、宇  
都宮短期大学様と、後期の方は、今日ご欠席でございます、宇都宮

大学様と連携させていただく予定となっております。

小林委員⇒ 若い世代が少ないため、この講座に若い人を読み込みたいということでしたら、企画者自身も若い方が企画をするというとも始めても良いかと思えます。用意を含めていろんな社会的に連携して高校生ボランティア団体とかそういう取り組みをしている所もあると思うので、試験的に学生の意見を取り入れるようなチャレンジのような1コマを作ってみても良いのかと思いながら話を聞いて思いました。ただ、そこまで若い人を取り込んでいく必要はないと思えます。

事務局) … ご年齢に関してですが、講座運営企画ボランティアスタッフにしましては、ほぼ平均年齢が70代です。人生経験を重ねた方が企画しております。またそれぞれのグループが得意とするものを企画の核と据えております。どうしても見る方によってはマンネリ化しているように見えてしまうということは1つ課題ではあるかと思えます。若い人を取り込むための企画としまして、市民大学とは別になりますが、朝5:45～「宮の朝活」という講座を前期と後期の2期に分けて、市の主催事業として取組んでいる所です。しかしながら、やはり若い方との大きな壁があいているところでありまして、大学生などの発想が企画に活かせるようになると良いかとも思えます。生涯学習の方で「地域教育推進計画」という計画がありますが、その中でまちづくりを学部で持っている大学さんもありますので、そういう所で講座を作らないかというところで、今、担当教官さんと話す機会を持たせていただいたりしているところです。

それから、広報うつのみやにつきましては、70%以上の方がそれを見て講座に参加するというので、高い啓発能力を持っているのですが、やはり若い方は広報うつのみやを見ないというようなことがあります。SNSや別の媒体を使って発信しなければ難しいという所は感じております。おっしゃる通り、新たな工夫が必要だと思えます。紙媒体ですと埋もれているという現状にあります。それは地区市民センターでもそうですし、大学でもそのような状態が見受けられましたので、ピンポイントで届くような手法が必要であるという風には感じております。

川本会長⇒ ありがとうございます。

できるだけ若い人向けとか、年配の方向けとかではなくて、本当は年配の方も若い方も一緒に混ざってこういう講座を聞けるという形が安定していくが理想的ではないかなと思います。

江田委員⇒ 基本的にこういう形で参加されている60、70、80代の方であり、社会で働いた後の人生経験を活かすということは、生きる力というのが根底になって、自分の今まで一生懸命やってきた仕事を企画という形で行っていると思います。活動している人を見に来た方たちが、影響を受けて様々な形でやっていけば良いのかなというのが1つあると思います。若い人がとか、誰かを取り込むのではなくて、年代の人達に力を持ってもらえるようなそういった形の募集とかを考えても良いのではないかなと思います。先程言ったように、若い人たちの受講を増やすにはSNSといった形にしないとどうしても見ないですね。そこを求めるよりは、今のこの年代の方々にもっと充実した生活をしていただくという方が良いという感じが致します。その数をもう少し増やすという風にしても良いのかなとは思ってはいます。

大山委員⇒ 先日、剣道の講座でまちづくりという話題で、日大の先生がいらっしやいまして、その中で学生を投入しました。それぞれの町に行くと、地域の子どもの方や年配の方と一緒にまきこんでやっていったという事例がございます。やはりそういった若者もしくは年配の方を巻き込んでいくということも必要かなという風に感じました。先程、年配の方がこういう企画をされているというお話で、マンネリ化に繋がるのではないかというお話だろうとおもうのですが、私自身の経験からしても、年々ですね、ボランティアをしていくことで、自分に返ってきます。次回、来年度どうしたら良いかということを考えながら企画を組むのですが、輪が広がっていきます。いろんな繋がりができましてですね、そういう中で我々自身も恩恵を受けています。年配の方も引き続き、積極的に企画していただきたいと思っています。

(3) その他

川本会長⇒ それではですね、続きまして、「その他」にいきたいと思います。「その他」と致しまして、次第にありますように「合同開講式・公開講座について」事務局から説明をお願いします。

川本会長⇒ はい、ありがとうございました。この中核市聞き取り調査結果（44市）ということで、たくさんですね市の状況を調べていただきまして、大変な作業だったと思うのですが、どうもありがとうございました。大変参考になる資料だという風に思います。それではですね、合同開講式・公開講座について以前から議論しておりましたが、すぐに来年度にどうするという話ではありませんで、具体的な結論というのはまだ先になると思います。ただ、今回どのように今後実施していくかということのご意見をお聞きしたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

長谷川委員⇒ 閉講式を実施している所はあるのでしょうか。

事務局) … 閉講式は、こちら調査しましたところ、3市ほどでございました。こちら記載の通りとシニア系の大学というスタイルや社労会的な感じでやっていたらというところも3市ほどございました。中々、それぞれ市区町村お聞きしてみますと、学部を設けたりしている所もございまして、開催日が異なっているということも合わせまして、中々合同の開講式というのには、課題があるということで、聞き取りをしていた所でございます。

川本会長⇒ それではご意見いかがでしょうか。島田委員。

島田委員⇒ はい、26年度から30年度まで書いてあるので、これから合同開講式の割合を見ると、ほとんどが40%~50%ということで多いか少ないか普通かというところ、それは中々難しいと思いますが、このような公開講座でももちろん有料制のものではありますが、中々8割以上から全員が集まるのは難しいと思います。個人的には出席率の高い方じゃないかという感じはしております。個人的な話ではありますが、みんなの方で社会教育委員を務めており、こういったいろいろな講座の受講生を集める時には開講式をやっても3分の

1 くらいです。これだけの回収率が7割近くあって、「意義がある」っていうのが7割から年度によっては9割近くあるということは、これは十分に公開講座の開講式の役目を果たしているなという感じがします。

ですから、これだけの人が参加してくれているというようなことは、僕は十分参加しているのではないかなという感じがします。

大山委員⇒ 先ほどもこのチラシで企画と組み合わせて、大学を紹介するという目標がありますが、こちらに出張していただいて、公開講座をやるという方法もあると思うが、今までそういったことはなかったのでしょうか。

事務局) … 昨年度、作新学院大学様ではうかがうのに足の確保が難しいということも色々考慮致しまして、市役所14階会議室で実施したところでございます。

大山委員⇒ やはり、すこし狭いでしょうか。

事務局) … 過去に早期に決行したものはございますが、305~340名ということで、重複受講者が1割ちょっと、2割まで行かない所を考えると、やはりどうしても200名~300名近くの方が入れるお部屋でないと、中々全員の方を前提に考えた時には、かなり難しくなってしまうということもございまして、大学様との連携の際もかなり大きいお部屋をご準備いただきまして、受講生には普段ない環境で受講いただけているというところでございます。

委員⇒ この特別企画で、公開講座の受講生はやはりどの程度増えているのでしょうか。そもそも参加者数が20名なのでなんとも言えませんが、やはり受講者には交通費を出していただいて、受講料も払っていただいているのですから、よほど興味がないと公開講座には来ないのではないのでしょうか。各専門講座には興味はあるが、公開講座に関してはどうか、という思いが出てしまうのだらうと思うので、よほどの仕掛けをしないとなかなか難しいかなと思います。

島田委員⇒ 募集するときに、広報を見て応募したという方が多いということでした。こういう話もありますよ、といような、講座に関してもっと深い説明をすることで興味関心もわいてくるのではないかと思います。やはり地元の大学とか、皆知りたいと思っていると思います。ただ、どうやってそこに行くのかとかそういったことを、周知していただき、そこには若い人も来ていただけるように、早め早めに周知していくと、今回7割で応募したっていうのが8割になるかもしれないし、9割になるかもしれないし、さらに開講式にもこの講座内容だったら行ってみようということにもつながってくると思います。

江田委員⇒ アンケート集計の割合についてなんですけど、年度別で区分されているのですが、そのうちリピーターというのはどのくらいでしょうか。

合同開講式に意義があり、意義がないとかっていうのも毎年絶対確認取ってというのがあると思うので、そのリピーターの数がわからないと、このパーセントがどんな意味になるか、なんとも言えないなと思いますが、そういった調査はどのようにしていますか。

事務局) … はい、市民大学を運営する際に、ここ数年にわたってなんですけど、リピーターだけでなく、新しい方に受講の機会をとということで進めており、お申込みいただく際に過去の受講回数ということで、今まで市民大学出たことがない方と、1回、2回以上ということでお聞かせいただきながら、その方の受講の過去の履歴を確認している所ですが、今回も18名ぐらいは後期講座で初めてということですが、2回目以降はリピーターになることから、中々1割までは届かないこともあるのですけれど、毎回どこかに20～30人くらいの方々は初めて宇都宮市民大学というものを知って興味を持ち、専門講座に問い合わせ受講します、というご希望をいただいているところでございます。

江田委員⇒ どんなものでも、リピーターというのは非常に大切だと思

ます。それは減らさないで、新しい人を増やすといった所の人数を確認しておくというのは非常に良いことだと思いますので、数を逆算していただけるといいと思います。

事務局) … 次回にはそういう資料も補足したいと思います。

長谷川委員⇒ こういう資料いただいたのは初めてです。今までのアンケートは結構マイナーな意見も合同開講式に対して多かったです。

そのため合同開講式は必要ないのではないかと前回ご意見を申し上げて、閉会式の方に変えていってはどうかといった提案をしたところではあります。しかし、これだけの半数の方がご出席いただいたことと、それからほとんどの出席した方が開講式に意義があるということがあったので、このままでいいのではないかという風に思いました。先程の方もおっしゃっていたように、大学の中を見て歩く、私は前回、都合が合わなくて出席できなかったのですが、こんなのがあったら行ってみたかったなと思ったくらいなので、やはりこういった企画がとても大事だと思います。学生の様子や大学の様子などを知ることができます。今後もこういった機会を楽しみにしています。

川本会長⇒ 確認ですが、この公開講座は専門講座の出席率の中の1つに入るのでよね。そのような形ではなかば強制性みたいなものを持っていると思います。それでもということですから、出席率に関しては多いのか少ないのかはわからないが、もし仮に強制出席制をはずした場合に、どのくらい公開講座の出席があるのかと考えると、おそらくそれほど多くは出席されないのではないのかと思います。公開講座も出席率にカウントされるため、出なきゃいけないという思いがあって、それで公開講座に出ているのではないのでしょうか。もう少しその辺ゆるめて、見どころがあって来てもらえるようなのを考えていった方がいいのかなと思います。今後検討していきたいと思っております。

小林委員⇒ 素朴な疑問ですが、中核市の市民大学のデータから、公開講座を実施しているほかの市の出席率を知ることができるデータはあるの



でしょうか。

事務局) … そちらまでは聞き取りができませんでした。次回、そういった点も広げまして聞き取りに関しましては、もう一步踏み込んで確認作業していきたいと思います。ありがとうございます。

小林委員⇒ 他市の数値と比較をしてみて、良かった所と、逆に悪かった所やその悪かった場合にはどのあたりが仕掛けとして必要というのを分析するっていうのも1つの選択なのかなと思います。個人的には、市民大学ということなので、1日キャンパスライフを教えてもらえたらというような考えがあり、帝京大学さんのご尽力で少し形になったのかなと思います、もし本当にきっちりやるならば、1日宇都宮市民大学というように、午前中合同開講式をやってもらって、公開講座をやってもらって、お昼を食べる、そして午後専門講座第1日目を教室や文化会館で1回目をやってもらえば、誰もが逃げられない出席率になると思うのですが、負担が大きいですね。通学も楽しんでもらって、1日大学生になろうというような固い選択というか副題としても一つあると思います。ただそれは負担が大きいと思うので、リアルの中で縮小したものも1つの案だと思います。そのためには情報検索して、他市の出席率などを踏まえて判断していけばと思います。

大山委員⇒ 前回の合同開講式・公開講座を行った豊郷のあたりは、よいポイントだと思います。私は美術館に行きましたが、ハイキングコースとしても良いところだなと思いますので、色んな組み合わせができるだろうと思います。やはり付加価値をつけていくということです。食事、学食なんていうのは、高齢になると食べられませんから、ずいぶん面白いなと思いました。

島田委員⇒ 先程の御意見は、講座受講生に関係する声ですよね。ではなく、まったく講座には無関係の人に対して、別にこれは講座に関係はないが、こういった話を聞くことはできます、といったやり方で一度やってみても良いような気がします。興味ある人はどういうことやっても来ますが、講座にしか興味がないって人は、たぶん何をやっ

ても来ないと思います。逆にもっと色々なことをやられても良い気がします。

川本会長⇒           ありがとうございます。時間となりましたので、今回はこの辺で終わらせていただきたいと思います。それでは「その他」につきまして、事務局から何かありましたら、お願い致します。

事務局) …           (今後のスケジュール及び次回の開催について説明)

川本会長⇒           それでは以上で、本日の議題は、すべて終了いたしました。皆さんの活発なご意見いただきました。円滑な議事進行への御協力、ありがとうございました。それでは、進行を事務局へ戻します。

#### (4) 閉会

事務局) …           川本会長並びに委員の皆様，長時間大変ありがとうございました。それでは、これをもちまして、平成30年度 第3回 宇都宮市民大学 運営協議会を閉会いたします。  
ありがとうございました。